

シンポジウム 「早生樹・エリートツリーの現状と未来」 ～その可能性と課題を探る～を開催！

林野庁は、平成31年3月4日に、東京大学弥生講堂一条ホールにおいて、「早生樹・エリートツリーの現状と未来」と題したシンポジウムを開催しました。

主伐が進んでいる地域においては「次の世代に何を植えるか」が大きなテーマとなっています。こうした中、コウヨウザンやセンダンといった成長の早い早生樹の植栽が注目されています。また、林野庁では、スギ・ヒノキ・カラマツ等従来からの造林樹種において、特に成長が早いエリートツリーの開発・普及を進めています。

このシンポジウムでは、これらの「林業の時間軸を変えうる」新たな造林樹種の活用に向けて、適地や施業方法などがどこまでわかっているの

か、今後何がわかってくるのかをテーマに、早生樹であるコウヨウザン、ヤナギ、センダンのほか、スギを中心としたエリートツリーに関して、育種や施業体系、木材の利用についての研究者や現場で実践されている方々8名から講演がありました。

当日は、定員の300名を超える来場があり、質疑応答の時間でも多くの議論が交わされ、早生樹・エリートツリーへの関心の高さがうかがえました。



シンポジウムの様子



センダン (植栽後16年)



コウヨウザン (植栽後55年)



(左)エリートツリー
(スギ)
(右)従来のスギ品種
(スギ精英樹)
(ともに植栽後4年)

※シンポジウムの講演資料については、林野庁HPに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/seibi/190204.html>



シンポジウム 「早生樹・エリートツリーの現状と未来」 ～その可能性と課題を探る～

I 早生樹とエリートツリーへの期待と課題

宇都木玄氏(森林総研研究ディレクター)

松村順司氏(九州大学大学院教授)

II 早生樹 ～いくつかの樹種を事例として～

1 コウヨウザンの特性・育成

生方正俊氏(林木育種センター遺伝資源部長)

松本寛喜氏(四国森林管理局森林整備部長)

2 エネルギー作物としてのヤナギ

原山尚徳氏(森林総研北海道支局主任研究員)

3 センダンの育成・利用と経済性

横尾謙一郎氏(熊本県林業研究指導所育林環境部長)

4 利用者側からのアプローチ ～センダン・広葉樹への期待～

中ノ森哲郎氏(パナソニックエコソリューションズ創研株
上席コンサルタント)

III エリートツリー

1 エリートツリーの開発・普及

倉本哲嗣氏(林木育種センター育種第一課長)

2 施業モデルの開発の状況

宇都木玄氏(森林総研研究ディレクター)

IV 今後に向けて(林野庁)

今後の推進方向の説明、支援策の紹介